



急性期病院における 看護師へのストーマケア教育

深野 利恵子 先生

自治医科大学附属さいたま医療センター

看護部 主任看護師

皮膚・排泄ケア認定看護師

ご略歴 2009年 皮膚・排泄ケア認定看護師取得 外科病棟配属

2013年 褥瘡管理者(専従業務) 現在に至る

1. はじめに

ストーマに関するケア方法や製品は時代の推移とともに著しい進化を遂げ、オストメイトの生活の質がより向上する環境が整えられてきました。その反面、多くの施設がストーマケア教育において「用品の著しい増加に対応し続けること」や「スタッフの入れ替わりの多い看護現場への教育」に関して共通する課題を抱えているのではないのでしょうか。

ストーマ用品は年々種類が増えており、皮膚・排泄ケア認定看護師資格を取得後10年以上ストーマケアに携わっている私でも知識と経験が追い付かない状況です。しかし、ストーマ用品の増加はオストメイトの要望の結果でもあり、生活の嗜好に合わせた用品選定やケアのシンプル化につながっています。

ストーマを造設する病院の看護師は、オストメイトの希望とストーマ用品をコーディネートする重要な役割がありますが、在院日数の短縮化やスタッフの入れ替わりが多い状況でその土台を構築することは容易ではありません。

私が所属する病院は、病棟看護師の平均経験年数が3～4年と若く、ストーマケアを多様に経験してきたスペシャリストが少ない現状です。結果、効果的な看護が提供できていないことや、皮膚・排泄ケア認定看護師の業務が逼迫するなど、様々な不利益を生じていました。この状況を打開し、院内のストーマケアの質の向上を目指すために「ストーマケア院内認定看護師制度」について構想を練り、実現させてきました。

今回は、当院で導入した院内認定看護師制度の構想から現在までの経緯とその効果についてお伝えします。

2. 当院の「ストーマケア院内認定看護師制度 (2015年～)」

■ 当院の概要

高度急性期病院。病床数628床。

ストーマ造設件数(年間)：消化器100例前後、泌尿器20～30例

皮膚・排泄ケア認定看護師：2名(1名は入退院支援室室長、1名は専従)

■ 当院の「ストーマケア院内認定看護師制度 (2015年～)」

スタンダードコース …基本的なストーマケアを習得

毎年**15～20名**が参加、合格

- 認定要件 … ① 「ストーマ基礎講座研修」参加
(訪問看護師との共通研修)
② 小テストに合格



エキスパートコース …より実践的・応用的なストーマケアを習得

毎年**1～2名**が参加、合格

- 認定要件 … ① スタンダード講習修了
② 埼玉ストーマリハビリテーション講習会終了
③ ストーマサイトマーキング実施テストに合格
④ 症例レポート提出
(S/A/B/C4段階評価のうちS/A評価にて合格)



3. 院内認定看護師制度ができるまで

① 外科病棟におけるストーマケア教育の改革 2009年～2011年(認定資格取得後1～3年目)

皮膚・排泄ケア認定看護師になった当初、私は外科病棟に配属されていました。当時は、認定看護師として、とにかく実践を積むことに専念していました。しかしある時、いくら自分が頑張っても部署のストーマケアの質があがっていないことに気が付きました。その理由として「認定看護師がいるから任せればいいか」「どうせ自分たちの意見は優先されない」というような若いスタッフのモチベーションの低下を私自身が招いてしまっている可能性が考えられました。認定看護師として専門職の良きモデルとはなにかを見つめなおし、どのようにストーマケアの教育を進めていくべきか考え始めました。

その時、看護学生の頃に行っていたアルバイトの経験を思い出しました。そこではアルバイト店員のランクが5段階に分かれており、段階が上がると時給も上がる制度になっていました。その段階別「承認」制度が店の理念を理解させ、安心・安全に商品を提供しようというスタッフの意識向上につながっていました。また、ランクを上げたいと楽しそうに働いていたスタッフが印象的でした。

私はストーマケアに興味がある看護師のモチベーションと能力向上のため、段階別「承認」制度をストーマケアの院内教育に導入したいと考えるようになりました。給与に反映することはできないとしても、自信をもって後輩指導ができることや、ストーマサイトマーキングを優先的に実施できるなど、ストーマケア能力を承認され特権が付与されることは、スタッフのモチベーション向上につながるのではないかと考え、名称を「ストーマケア部署認定」として企画を練り始めました。

ストーマケア部署認定になる条件は、ストーマケア経験年数3年以上とし、希望を募りました。最初の参加者は5名でした。3回に分け勉強会とミニテストを実施、最終テストで合格としました。「承認の可視化」と「認められているという実感」が得られるよう、合格したスタッフを部署内に掲示し、ストーマケアの相談窓口としました。私は基本的に指導から手を引き、合格したスタッフが自信に繋がられるような対応を心掛けました。

部署認定の導入から2年が経過し、スタッフのやる気が見え始めたころ、私は褥瘡専従として部署を離れることになり、更に視野を広げ院内全体のストーマケアを考える立場に変わりました。

② 院内認定看護師制度の設立まで 2012年～2014年(認定資格取得後4～6年目)

ストーマケアは消化器や泌尿器科病棟だけではなく、婦人科病棟、集中治療部、心臓血管外科病棟など様々な部署で行われていました。前任の皮膚・排泄ケア専従看護師も各部署での勉強会の実施や写真付き手順書を作成するなどして対応していましたが、ストーマケアが「たまにある」状況の部署は、基本的なストーマケアが根付いていませんでした。私へのコンサルテーションも毎日数多くあり、その都度指導しても担当看護師が毎回変わるため、病棟のスキルは一向に上がることはありませんでした。やはり院内全体で集合教育の機会を設け、責任をもってケアを任せられる看護師の育成が必要だと確信し、病棟で実践した承認制度の拡大型として「ストーマケア院内認定看護師制度」について進めていくことにしました。

制度の導入には看護部の理解が必須のため、教育担当看護副部長と繰り返し話し合いの場を設けました。制度を設ける目的・目標や条件、将来的な構想まで詳細に問われ、うまく企画書を修正できず実現をあきらめようとした時もありました。なんとか半年以上かけて看護部の許可を得た後、全部

署の師長に理解をいただくまでさらに半年程度かかりました。反対意見なども多くありましたが、対話を繰り返すことで徐々に興味をもっていただけました。

何かを形にしていくには熱意も必要ですが、建設的かつ効果的なビジョンとその可視化が最も重要であることを今回の件で大きく学びました。

③ ストーマケア院内認定看護師制度導入の実際 2015年(認定資格取得後7年目)

院内認定制度の目的「ストーマケアの質の向上」に向けて教育を考えた際、看護師により経験に差があるため、すべての看護師を同じレベルで認定することは効果的ではないと考えました。そこで、基本的なストーマケアの習得を目指した「スタンダードコース」と、難易度の高い応用的なストーマケアにも対応できる「エキスパートコース」の2段階に分けた承認制度にしました。

スタンダードコース

① ストーマ基礎講座の受講

この研修では、地域連携の強化を目的に、病棟看護師に加え地域の訪問看護師にも毎年参加いただいています。(内訳：病棟看護師と訪問看護師各15～25名)研修の内容は、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会の基礎教育講習会用GIO・SBOsをベースとしたカリキュラムにしました。

午前は医師、MSW、皮膚・排泄ケア認定看護師による講義中心、午後は演習・症例検討が中心です。演習では、実際に装具を手にとってメーカーによる違いや装具の構造や特徴を意見交換し、実際に装具交換の体験も行っています。症例検討では、訪問看護師と院内の看護師がそれぞれの視点を意見交換することで、継続看護の重要性を学ぶ機会になっています。

アンケート結果では「とにかく楽しかった」「立場の異なる看護師の意見が聞けて良かった」というプラスの意見を沢山いただいています。

② 小テスト

ストーマ基礎講座で学んだ内容を中心に小テストを実施し、スタンダードコース合格としています。



ストーマケア基礎講座の様子



ストーマケア基礎講座 講師による講義の様子

エキスパートコース

エキスパートコースを認定されるためには、スタンダードコースが認定済みで、県内で開催するストーマ・リハビリテーション講習会を受講・修了していることが最低条件です。加えて、院内でストーマサイトマーキングの実践テストとレポート作成を行い、皮膚・排泄ケア認定看護師2名が評価したのち合格としています。レポートの評価基準は、様々な文献を参考に当院のスタイルに合うように構成しました。

エキスパートコースは現在まで10名が受け、8名が在籍(2名退職)しています。エキスパートコースの認定者を見ていて驚くのが、技術や知識が著しく向上しているだけでなく、部署において自信に満ち溢れたリーダーシップが取れていることです。他部署からのストーマケアに関する相談も積極的に対応できていますし、スタンダードコースの運営に携わっており、とても頼りになる存在に成長しています。

資料1 当院における「ストーマケア院内認定看護師制度」概要

	スタンダードコース	エキスパートコース
目的	標準的なストーマケアが習得できる	応用的なストーマサイトマーキングや装具選択、継続看護を展開できる
受講条件	ストーマケア基礎講座(当院で開催している1日研修訪問看護師と合同で開催)の受講が終了している	①スタンダードコースが合格している ②ストーマリハビリテーション講習会(外部研修)の受講が終了している ③ストーマに関する実務経験が2年以上ある
テスト	研修終了後、ペーパーテストを受ける	ストーマサイトマーキングの実践テストを受ける
レポート	なし	ストーマケアに携わった1症例をA4レポート1枚にまとめて提出。 (合格評価基準有)
認定者の人数	年/ 10~15名	年/ 1~2名

資料2 当院で開催している「ストーマケア基礎講座」概要

参加者	当院の看護師(15~25名)、地域の訪問看護師(15~25名)
開催形態	一日研修(午前/講義中心、午後/実習中心)
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーマの基礎知識(消化器外科医師) ・ストーマ造設前のケア、生活指導(皮膚・排泄ケア認定看護師) ・ストーマの観察(皮膚・排泄ケア認定看護師) ・社会保障制度(MSW)
実習内容	グループワーク (ストーマ用品/ストーマ装具交換の実際/症例検討)
インストラクター	皮膚・排泄ケア認定看護師/ストーマケア院内認定看護師中心

4. ストーマ院内認定看護師制度を設立して今思うこと

ストーマケア院内認定看護師制度の構想から10年、設立して8年、バージョンアップを繰り返しやっと理想の形になってきました。現在、当院でストーマ院内認定看護師の存在は当たり前になってきましたが、院内全体に認識されるまでは3～4年かかったと思います。我々は同時期にスキンケア院内認定の研修も導入しており、各病棟の院内認定がリーダーシップを発揮し、主体的に活動してくれています。

院内認定制度の効果は、「承認」されることによりプライドが得られ、自信をもって根拠のある後輩指導やケアを実践できることだと思います。また、周囲から頼られることで自分の存在意義を実感でき、仕事を続けていくモチベーションにつながっていると感じています。

当院のストーマ院内認定看護師制度は完結したわけではありません。後輩たちが楽しんで継承していけること、そしてより効果的な教育が見いだせるように改革を続けることを目的に、新たなスタート地点に立ったところです。時代や環境の変化に合わせ、どのように看護師の自主性を高め続けられるか、自身の永遠の課題と考えています。

※掲載内容は発行時点における情報です。

※この事例は特定の施設における取り組みを紹介するもので、すべての施設において同様の成果が得られることを示したものではありません。



発行元 **株式会社 ホリスター**

〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-8 スフィアタワー天王洲21階

株式会社 ホリスター

フリーダイヤル **0120-032-950**

URL : www.hollister.co.jp

ダンサック

フリーダイヤル **0120-977-138**

URL : www.dansac.jp